厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

病院受診者を対象とした骨粗鬆症予防体制の整備のための研究

研究分担者　曽根 照喜　川崎医科大学放射線核医学教授

研究要旨：骨粗鬆症以外の疾患で病院を受診している患者のなかで骨粗鬆症の治療適応があるものの見過ごされている症例についての調査を実施した。その結果、一定数の症例が適切な骨粗鬆症管理から漏れていることが示され、これらの症例に対する有効な対策の確立が骨粗鬆症性骨折の予防に寄与するものと考えられた。

A．研究目的

骨粗鬆症以外の疾患で病院を受診している患者には骨粗鬆症の治療適応があるものの見過ごされている症例が一定数含まれることが予想される。本研究ではこれらの症例を効率よく見つけて適切な医学指導に結びつける体制を確立するための調査を行うことを目的とする。

B．研究方法

今年度は当院の受診患者を対象にして、①骨粗鬆症以外の疾患の診断目的で撮影された脊椎 X 線 CT を利用した既存椎体骨折のスクリーニング、②ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインの遵守率の調査を行った。いずれも川崎医科大学の倫理審査委員会に申請して許可を得て実施している。

C．研究結果

脊椎 X 線 CT を利用したスクリーニングでは、診療録の調査と合わせた判断に基づき、8490 例中、1279 例で骨粗鬆症性と思われる既存骨折が確認され、これらのうち、何らかの薬物治療が実施されていた症例は 51%であった。ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインの遵守率に関しては、骨折予防のための薬物治療の実施率が 70%であった。

D．考察

脊椎 X 線 CT を利用したスクリーニング（opportunistic screening）は、既存骨折や骨密度の評価法としてコスト面で優れ、今後の自動処理技術の進歩とともに普及が期待されている。今回の調査では既存骨折の判定のみを行ったが、適切な骨粗鬆症管理から漏れていると思われる症例が一定数確認された。また、ステロイド性骨粗鬆症に関しても同様の傾向が認められた。現在、骨粗鬆症に関する院内リエゾンサービスを利用して、より適切な骨粗鬆症管理体制をとれるように進めている。

E．結論

既存椎体骨折のスクリーニングやステロイド性骨粗鬆症のガイドライン遵守率の調査結果から、一定数の症例が適切な骨粗鬆症管理から漏れている可能性が考えられた。これらの症例に対する有効な対策の確立は、骨粗鬆症性骨折の予防に寄与すると考えられる。

F．研究発表

1. 学会発表

1. 大成 和寛、曽根 照喜、田中 健祐、赤木 和美、朱 容仁、福永 仁夫: TBSと各骨強度指標の相関について.日本骨形態計測学会雑誌 29巻1号 Page S125(2019.05)
2. 大成 和寛、曽根 照喜、中西 一夫、難波 良文、長谷川 健二郎、三谷 茂、長谷川 徹、福永 仁夫:当院におけるステロイド性骨粗鬆症に対するガイドライン遵守率. 日本骨粗鬆症学会雑誌 5巻Suppl. 1 Page294(2019.09)

G．知的財産権の出願・登録状況

なし